

KLIS TODAY

No.
20

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

春の進学説明会（そして、夏の説明会へ!）

筑波大学春の進学説明会が平成 25 年 3 月 29 日に（筑波大学全体としては 3 月 27 日～29 日に）茗荷谷の筑波大学東京キャンパス文京校舎で開かれ、学類長、教員そして学生たちがさまざまな観点から本学類を説明しました。なお、来る 7 月 31 日には筑波大学春日エリアにて学類説明会があり、学生主体でさらに熱く語り、盛り上がります！詳しくは以下の Web ページをご覧ください。

<http://klis.tsukuba.ac.jp/OpenCampus2013.html>



高校との違いを説明する長谷川学類長



教員と学生によるパネルディスカッション



受験体験を話す 1 年生



熱心に聞く参加者



平成24年度学位記授与式、祝賀会

知識情報・図書館学類の学位記授与式が3月25日に春日講堂にて催されました。授与式で緊張しつつ卒業証書を受け取った卒業生たちは、祝賀会で喜びを分かち合いました。



さあ、舞台は整った！



華やかな袴姿が目立つ卒業生たち



緊張して卒業証書を受け取り・・・



ほっと一息



卒業証書とともに輝く卒業生



こぼれる喜びの笑顔



祝賀会で記念写真を撮りあい、祝福しあう



学群長表彰の表彰式

学位記受領総代を務めた佐々木あすかさんから後輩へのメッセージです。

大学生活で学んだこと

佐々木 あすか

私が大学生活 4 年間で学んだことは、仲間の大切さです。今になって大学での生活を振り返ると、どの場面にも仲間の姿がありました。

授業で難しい課題が出題されたとき、イベントを催そうと考えたとき、物事がうまくいかず落ち込んでいるとき、いつもそこには仲間がいて、協力することで乗り越えてきました。「卒業してもずっと繋がっていたい」、そう思える沢山の仲間と出会えたのは、生涯で初めての経験であり、そんな仲間たちが私の学生生活における一番の財産です。

ですから在学生の皆さん、これから大学に入ろうと考えている皆さん、人に話しかけることを率先して行ってください。少しでも縁があった人、興味をもった人には、まず話しかけてみてください。授業でたまたま席が近かった学生、お店で出会った見知らぬ人々など、日々の生活において出会いは無限であり、その出会いが一生の財産となる可能性も、今のあなたの周りには無限に広がっています。

大学生という時期は時間に余裕もあり、見知らぬ人と知り合う機会がとても多い、人の輪を広げるにはちょうど良い時期です。恥ずかしがったり面倒に思ったりせず、大学生活の最後の最後まで、見知らぬ人との出会いを楽しんでください。

(ささき・あすか 会社員、知識情報・図書館学類 平成 25 年 3 月卒)



釜山大学校との交流

本学類では国際的に活躍できる人材の育成をめざし、授業として国際インターンシップを実施しています（本誌 No.7、No.10 参照）。そのプログラムにより毎年数名の学生が短期間、海外の図書館や情報センターへ派遣され、また海外の学生が本学を訪れ日本の図書館事情を学んだりしています。その一環として、韓国の釜山大学校から先生と学生さんたち計 8 名が平成 25 年 1 月 28 日から 2 月 7 日まで本学類に滞在されました。

学生さんたちは施設の見学や講義を通して日本の図書館について熱心に学び、「筑波大学 知識情報・図書館学類 国際交流プログラム 修了証明書」を授与されました。また韓国の図書館事情についてプレゼンテーションをしてくれました。短期間の滞在ではありましたが、学生さんたちは一生懸命コミュニケーションを試み、日本に大きな関心をもってくれました。

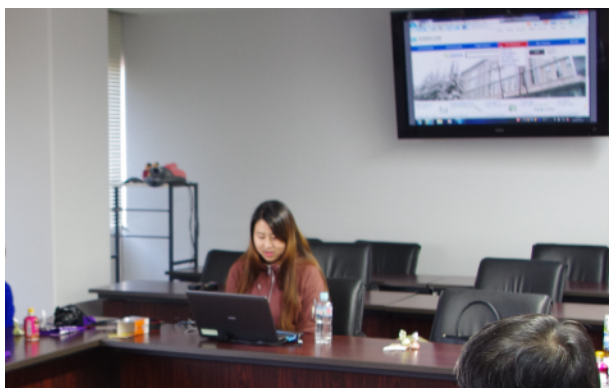
筑波大学滞在のきっかけや、筑波大学の学生の印象、今回の交流で学生さんたちが学んだことなどについて、広報グループのインタビューにお答えいただきました。



引率された釜山大学校の李壽相教授



世話役の松林講師を囲む学生さんたち



韓国の図書館事情についてプレゼンテーション



学類長から修了証明書を授与

釜山大学校の李壽相教授と学生さんへのインタビュー

[文責 学類広報グループ]

Q 国際交流協定校は釜山大学校にいくつもあると思うのですが、あえて日本の協定校に短期滞在をしようとしたきっかけはどのようなところにありますか。

A (学生さん) 先輩たちが日本に興味をもっていましたので情報が充分にありました。しかも他よりも筑波大学はよく準備してくれていたということも大きいです。

Q 筑波大学の知識情報図書館学類の学生は釜山大学校文献情報学科の学生さんと比べて、どのような印象がありますか？

A (李教授) 似ている感じで、考え方とかスタイルもあまり違いはないと思います。

Q 本学類の学生はツイッターをよく利用していますが、釜山大学校の学生さんはいかがですか？

A (李教授) 韓国人全体が小さな頃から SNS に慣れているのでツイッターは短すぎます。表現したいことがたくさんあるのに簡単な文章しか作れません。写真とか色々なものを表現できるフェイスブックの方に魅力を感じています。釜山に限らず、韓国の大学生全般に言えることです。

Q この国際インターンシップの交流を始めて、釜山大学校の学生さんにどのような変化が表れましたか。

A (李教授) この種の交流は日本から始めました。学生の考え方がグローバルになったと思います。また視点が広がりました。以前には韓国のこと以外考えなかった学生も、「外国のこういう点を見習ったほうが良い」と言うようになりました。

Q この経験を今後どのように活かしたいでしょうか？

A (学生さん) 日本での経験が直接将来の職業につながるとは限りませんが、自分が司書になったときに、今回の経験を活かして、コミュニケーションで色々な観点から他人を理解できるようになると思います。



インタビューを終え、揃って撮影

アメリカ図書館ツアー！

本学類の学生 5 名が引率の松林麻実子講師とともにアメリカ図書館めぐりをしました。平成 25 年 3 月 10 日に出発し 18 日に帰国するまでに、ピッツバーグ大学図書館、ピッツバーグ・カーネギー図書館、カルフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学の図書館、そしてサンフランシスコ公共図書館を訪れました。施設の見学やスタッフとの交流を通して得られたかけがえのない体験は、帰国後の報告会で堂々と発表されました。



ピッツバーグ大学の石碑



ピッツバーグ・カーネギー図書館にて



ピッツバーグ・カーネギー図書館前のカーネギー君



カリフォルニア大学の東アジア図書館



サンフランシスコ公共図書館前の市庁舎で
たまたま催されていたセントパトリックデーパレード



成果報告会で熱弁をふるう（榎本翔さん）



古澤智裕さん

英語力の壁を越えてアメリカ文化にふれる

古澤 智裕

アメリカ図書館ツアーの話が舞い込んだとき、私は英語力に自信がありませんでした（今もありません）。なので、このツアー参加が英語学習の起爆剤になればという期待があり、参加することにしました。

じつはツアー参加前、私は図書館というものにそれほど興味がありませんでした。しかし、アメリカでさまざまな図書館を見学していくうちに図書館への興味が大きくなっていきました。今回の見学のなかで最も驚いたのは、アメリカ図書館における司書のやる気が半端ではないということです。大学図書館の司書であれば、研究のための文献を本気で探してくてくれます。なので、研究者は彼ら彼女らの名前を論文の謝辞に載せることまでするそうです。そして司書の方々は利用者にとって図書館が最高の空間となるよう、日々改善するための努力を惜しみません。図書館は本を読むためだけの空間ではなくなってきていると感じられ、こうした司書の方々の姿を見ることを通じて、自分の視野が広がり、価値観が変わるのを感じました。

旅行中は常に「英語の重要さ」を実感していました。ピッツバーグの公共図書館で、少しのあいだ司書の方と二人になる場面がありました。楽しくお話しすることはできましたが、自分の英語力によって話題が縛られてしまうことを実感しました。いまだに英語は苦手（むしろ嫌い）ですが、きちんと勉強しなくてはいけないなと痛感しました。

全体を通しては、日本とまったく違う文化にふれる楽しさを毎日感じることを強調しておきたいです。図書館やそこで働く人たちが日本とはまったく違いました。しかしそれらをよりきちんと自分からつかみとるためには、一定レベルの英語力が必要だということも分かりました。日本に留まらずにもっと世界に出ていくことが、視野を広げ価値観を変える点で重要なのだと、今回のツアーで改めて思いました。

（ふるさわ・ともひろ 知識情報・図書館学類 3 年次）

新入生オリエンテーションとバスツアー

新入生オリエンテーションが平成 25 年 4 月 10 日に、バスツアーが 11 日に行われました。春日エリアでのオリエンテーションでは教員や先輩たちが話す、カリキュラム、キャリア、学生生活など盛りだくさんの話題に、新入生たちは顔を輝かせながら熱心に聞き入っていました。バスツアーの行き先は上野公園。バスのなかや公園でにぎやかに話し、交流を深めました。



先輩が語る有意義な学生生活



教員からは未来に向けたキャリアの説明



図書館をうまく使いこなすには？



バスに乗ってさっそく自己紹介



上野の国立西洋美術館で芸術にふれ



国立科学博物館で科学を聞く